



私の赤ちゃんはすぐに熱が出るみたい。赤ちゃんの熱が出る原因はどんなものがあるのでしょうか。
(赤ちゃんの体温に一喜一憂しているママ)

A 子供のお熱心配ですね。特に乳児は泣いたり、ぐずったりでどこが悪いといってくれません。夜にお熱に気がつくと、相談する相手もいないし、救急病院に行くべきかどうか不安な時間が訪れます。でも赤ちゃんのお熱は38℃以上と考えてください。38℃台でも機嫌がよくて、水分をとり、お目目に表情があれば大丈夫なことがほとんどです。お熱の原因是体の中に発熱の原因となる物質ができるためです。細菌、ウイルス、がん細胞などの異物が体の中の細胞を刺激して発熱の原因となる物質をつくります。そこで赤ちゃんの発熱の原因は主に細菌かウイルスということになります。

赤ちゃんはお母さんからお臍をとうしてウイルスに対する抗体をもらい、母乳から気管支炎や胃腸炎を防ぐIgAという抗体をもらいます。3ヶ月までにお熱が出ることが少ないのでこの母親由来の抗体のためです。この母親からの抗体は6ヶ月から12ヶ月ぐらいで減少し、変わって子ども自身の抗体が増えてきます。この時期に合わせてウイルス感染症にかかりやすくなるわけです。代表的なのが突発性発疹、夏風邪のコクサッキーやエコーウィルス、アデノウイルス、インフルエンザウイルスなどに順番にかかるわけです。インフルエンザをのぞけばほとんどのウイルスは一回かかると2回かかりません。免疫学的記憶ができるわけです。風邪にいつもかかっていた病弱な子供が、小学生になって病気ひとつせず遊びまわるのがこの免疫学的記憶のおかげです。ウイルスは麻疹やインフルエンザをのぞけばほとんど重症化せずに自然経過で治りますが、細菌感染症はそうは行きません。その代表格が髄膜炎、中耳炎、尿路感染症です。中耳炎や尿路感染症は発熱以外症状がないことが多いです。そのため中耳炎では鼓膜を見る、尿路感染症では尿の検査をすることが大切です。中耳炎、尿路感染症を見逃すと髄膜炎になって大変重い状態になることがあります。中耳炎はそれでもお風邪からの中耳炎、滲出性中耳炎が多く必ずしも治療しないで治ることも多いです。したがって見逃してはならないのは尿路感染症となります。でも尿路感染症の診断は簡単です。オシッコをテープで調べ、顕微鏡でチェックすれば見逃すことはありません。

一番大変なのはこのオシッコを採取することなのです。赤ちゃんにオシッコを調べるよといつてもオシッコをしてくれません。そこでOCFCでは尿パックをオシッコの出口(外陰部)につけます。オシッコするまで何時間も待つこともありますので、場合によっては診察する前の待ち時間にこのパックをはることもあります。お熱以外に咳とか鼻水、嘔吐、下痢などがない場合です。看護婦からよく説明をうけて、納得してから検査を受けてください。医師の診察後に検査を受けたい希望がある方はその旨を看護婦にお話ください。この尿路感染症、通常は治療が容易です。抗生素の内服ですぐあります。1週間以上症状が続いたり、繰り返すようであれば尿の通り道(腎臓・尿管・膀胱・尿道)の異常(尿の逆流など)があることがあります。超音波やレントゲンの検査が必要です。

熱が続く、食欲不振(水分も取れない)、頭の一部(大泉門)が膨らんでいる、とっても不機嫌などの症状があれば髄膜炎を疑います。嘔吐、痙攣などの症状も出ますが、こんな症状が出る前に受診したいものです。

ともあれ、1ヶ月までの発熱は原則入院、1歳までの発熱は検尿が原則です。

(OCFC院長)

医療法人社団 オー・シー・エフ・シー(OCFC)会
OCFC
Okawa Children & Family Clinic
大川こども&内科クリニック
小児科・内科・アレルギー科(併設 病児保育室 うさぎのママ)
東京都大田区多摩川1-6-16
院長 大川 洋二
診療時間:月~金 午前 8:30~12:00 午後 2:00~6:00
土 午前 8:30~12:00 午後 1:00~3:00
(日曜・祝日休診) 駐車場7台あり

予約専用 03-3758-0099 代表番号 03-3758-0920

E-mail: info@ocfc.jp URL: http://www.ocfc.jp

うさぎのママ お問い合わせ

直通電話 03-3758-0066 E-mail: usagimama@ocfc.jp



東急多摩川線矢口渡駅前



大川こども&内科クリニック

インフルエンザワクチン10月3日開始

OCFCのワクチンは今年も水銀を含みません

☆ 成人・小児 1回目: 3,000円
2回目: 2,000円

ワクチン接種は日曜・休日もおこないます。すべての診療時間帯で接種可能です。

昨年のインフルエンザ患者さんは934名でA型、B型ほぼ同数でした。昨年の接種は10月、11月には多くの方が接種に訪れましたが、12月になって接種者は減少し総数として予防接種された方は減少したようです。そのことが4月以降もインフルエンザの流行が続き、結果として21世紀最大の流行となったことと関連があるかもしれません。昨年の轍を踏まないためにも予防接種を受けましょう。今年のワクチンはA型がニューカレドニア20/99(H1N1)、ニューヨーク55/04(H3N2)、B型が上海261/02の3種類です。昨年の流行と今年の南半球での流行か

☆ 水銀低濃度含有ワクチン 2,000円
(成人男子、壮年以降の方向き)

ら決定されています。

インフルエンザワクチンは流行の前に済ませなければいけません。早期の接種をお勧めします。現在のインフルエンザワクチンは不活化ワクチンのため、発症予防には50~70%くらいしか効果はありません。重症化の予防のために接種するのです。そのため重症化しやすい65歳以上の老人、喘息、心臓病など心・肺の疾患をお持ちの方、抗インフルエンザ剤(タミフル)の使用が制限されている1歳以下の乳児は必ず受けるようにしてください。6ヶ月児以降の乳児の接種は必須です。6ヶ月未満の方の接種はご相談ください。また保育園、幼稚園、学校などの集団施設に通っている方、勤務されている方も接種しましょう。

MRワクチン(麻疹・風疹混合ワクチン)2006年4月解禁

変わる予防接種

来年4月からMRワクチンが接種可能となります。それに伴い予防接種の予定が変わります。

平成17年4月1日以降に生まれた方が対象となり、1歳時、就学前1年の2回接種となり、いずれも公費負担となります。3月31日までに生まれた方は従来どおり、麻疹、風疹をそれぞれ単独で接種します。しかし就学前のMRワクチンは任意(有料)です。不公平感があるので、今後公費負担の道が開かれるかもしれませんが現在のところ任意です。

それでは3月31日までに生まれた方はどう判断したらよいのでしょうか。OCFCの考えを記載しますがあくまで参考です。決定はご自分の判断でお願いします。

①平成16年12月31日までに生まれた方。1歳で麻疹、1ヶ月後に風疹の予防接種を受ける。小学校就学前に任意でMRワクチンを受けたほうがよいでしょう。
②平成16年12月31日までに生まれてMRワクチンを希

望する方。4月1日までMRワクチンを待つことになりますが、接種する前に麻疹・風疹の可能性のある方と接触したら予防または症状の軽減を目的としてなるべく早期にそれぞれの予防接種をうけたほうがよいでしょう。

③平成17年1月1日から平成17年3月31日生まれの方。
②に準じます。ただしご希望により麻疹・風疹ワクチンをそれぞれ接種してもいいでしょう。この場合は就学前に任意でMRワクチンの接種をお勧めします。

最大の問題は4月1日から希望する方全員に必要量のワクチンを製造して供給できるかにあります。新型日本脳炎ワクチンについても同様です。OCFCでは全力をあげて十分量のワクチンを確保する予定です。

MRワクチンの接種法に関するパンフレットは予防接種を希望して来院されている方にお渡ししています。平成18年4月1日以降の予防接種スケジュール表はOCFCのホームページ健康支援コーナーの予防接種の項にあります。

OCFC INFORMATION

感染症 だより

夏風邪の大流行

今年の夏も夏風邪は大流行しました。アデノウイルスは6月から急激に増えて94名でしたが、7月も85名、8月は23名と急激に減少しました。このウイルスの症状としては滲出性扁桃炎が圧倒的に多いのですが、いわゆるプール熱（咽頭結膜炎）も流行しました。今年の流行はアデノ2型と3型が多く、ついで1型と5型が検出されています。コクサッキーウィルスやエコーウィルスによるものでは手足口病が7月32名、8月17名、ヘルパンギーナが7月97名、8月44名でした。ヘルパンギーナは2回、3回と今年の夏に罹患する方もいらっしゃいました。複数のウイルスが蔓延するからです。2回目、3回目のヘルパンギーナでは症状が軽い方が多いようです。コクサッキーウィルスではA6、A9、A16、B3、B4、エコーウィルスでは2型、9型、25型の流行がありました。夏風邪ウィルスは変異することが少ないので、かかる回数はウイルスの種類の数だけです。その数はアデノウイルスで15種類、コクサッキーウィルスで19種類、エコーウィルスで16種類の約50種類です。貴方のお子さんはこれまで何回お済ですか。アデノウイルスは近年季節性がなくなりつつあります。通年性の病気となっていました。これからも注意しましょう。

流行続くおたふく・水痘

流行性耳下腺炎は今年の夏大流行でした。6月19名から7月47名、8月30名でした。嘔吐・頭痛の合併症を起こされた方が2名、ご両親への感染が4名ありました。一人の方は東邦大学耳鼻科に紹介入院され、他の疾患との関連も含め精査加療となりました。耳下腺の腫れが軽い場合、または何回か繰り返している方には抗体検査をお勧めします。おたふくに対する抗体が既にあれば、他の人へうつすこともないで、状態さえよければ学校・園に通えます。水痘の患者さんは7月26名、8月8名とやや沈静化の傾向です。水痘は自然経過で7~10日で回復しますが、抗ウイルス薬を服用すると5~7日で直ります。抗ウイルス薬を希望されなかった方は2名でした。

感染性胃腸炎は再び増加か

感染性胃腸炎は減少傾向にあり、7月72名、8月60名でした。9月になっても現在まで増加していません。アデノウイルスによる胃腸炎では下痢がだらだらと2週間以上続くこともあります、その割には元気よく、体重減少もないようです。例年9月は感染性胃腸炎の少ない季節ですが10月後半から11月にかけてノロウイルスによる嘔吐下痢が急増します。皆様手洗いうがいを忘れずに。

その他の感染症

7月、8月で溶連菌は15名、マイコプラズマ肺炎は2名でした。沖縄では夏のインフルエンザ患者さんが診断されていますが、東京ではありません。中国南西部では原因不明の感染症が再び流行しているようです。7月の一ヶ月間に41名の感染者が出て、17名死亡したそうです。その一部にブタブドウ球菌が原因としてあるようです。症状は高熱、疲労、嘔吐、昏睡だそうです。今のところ患者さんはブタやヒツジの飼育・精肉に従事している農民の方のようですが、中国を旅行される方はご注意ください。

うさぎのママ だより

7月、8月、9月（第3週まで）ご利用者はそれぞれ88名、95名、62名でした。疾患は上気道炎、流行性耳下腺炎、アデノウイルス感染症、ヘルパンギーナなどです。9月から保育士に加藤さんが入職しました。収容できる病児は6~8名になります。キャンセル待ちの方は毎日4~8名ぐらいいらっしゃいますが、ご利用者の半数の方は元気になられて当日朝7時30分までにキャンセルされる方が多いようです。とくに月曜日のご利用を申し込みの方は全員がキャンセルされて全員入れ替わることもあります。キャンセル待ちの方でもキャンセルですので、8番ぐらいまではご利用の可能性があります。めげずにキャンセル待ちでお待ちください。

OCFCホームページ、メルマガ好評発信中

昨年4月にOCFCHP開設以来HPにいらした方は6月には3万人を超みました。トップページにはクリニックの診療予定、じっくり外来や神経外来、心理発達外来の予定、花粉症やインフルエンザの最新情報を掲載しております。また昨年7月より週刊OCFCメールマガジンを発行しております1周年をむかえ、60号をこえています。購読者は600人を越えました。購読申し込みはホームページからどうぞ。ホームページのアドレスはURL:<http://www.ocfc.jp>です。是非アクセスしてください。

病診連携

7月、8月、9月で関連病院に紹介した患者さんは58名、検査紹介2名、入院紹介10名、外来紹介46名でした。検査紹介は頭部MRIを東邦の放射線科にお願いしました。小児の入院依頼は川崎病で日赤医療センター、喘息・肺炎で昭和大学小児科、敗血症で東邦大学小児科、中耳炎からの顔面神経麻痺は東邦大学耳鼻科に紹介しました。成人では婦人科系急性腹症で2名東邦大学産婦人科、脳血管障害で東邦大学脳外科、扁桃炎で本田病院に紹介しております。OCFCでの抗生素の点滴静注を希望される方が多く、肺炎での入院は激減しております。外来紹介は7月19名、8月19名、9月7名（第3週まで）で、小児外科系は医科歯科大学小児外科、腹痛で東邦大学小児科に紹介しています。中耳炎の疑いがある患者さんはご自宅の近くの耳鼻科に紹介しております。内科は東邦大学、昭和大学、大森日赤、池上総合病院等に患者さんの希望を聞きながら紹介いたしました。

他院からの紹介者は4名、東邦大学小児科から腎疾患、昭和大学北部病院から先天性心疾患、東邦大学心療内科から自律神経失調症のフォローアップの依頼がありました。

院長のサイエンティフィックアクティビティ(Scientific activities)

9月1日より15日まで東邦大学の研修医佐々木先生がOCFCで小児科の研修を行いました。とてもやさしい先生で皆さんも安心して受診されたと思います。先生はこれから東邦大学に戻って研修を続けられて来春からは専門の診療を行うことになります。救急で東邦に受診するとまたお会いできるかもしれません。卒前研修は7月12、13、14日東邦大学医学部4年生、9月6日、8日と医科歯科大学医学部看護学科の4年生が研修しました。10月には東邦大学医学部の1年生が研修の予定です。9月4日には小児科認定医希望者（卒後経験4年以上）の面接を行いました。20名の希望者と面接しました。もう少し勉強されたほうがよい方もいらっしゃいましたが総じて優秀な医師とおもいました。一般向けに「ぴあ子供と遊ぼう秋　おでかけトラブルサポート秋　体のトラブル」10月20日発売号、「オレンジページ8月2日号　子供の夏のトラブル解決術」を監修しています。また発達障害児の診療と日常のケアを行っている王子クリニックをたずねた「クリニック訪問　発達協会王子クリニック訪問」東京小児科医会広報誌 の別冊があります。

診療時間

栄養相談の予約:代表電話で直接予約ください。
大田区の各種健康診査は木・金の午後2:00~4:00にお越し下さい。検査希望の方は代表電話にて直接予約してください。

曜日	8:30~12:00	14:00~16:00	16:00~18:00
月	小児科・内科（院長・三宅）	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科（院長・佐々木）
火	小児科・内科（院長）	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科（院長）
水	小児科（院長） 内科・循環器（上田）	乳健・予接・ア・慢	小児科（富沢） 1・3・5水　じっくり外来（院長）
木	小児科・内科（院長）	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科（院長）
金	小児科・内科（院長）	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科（院長）
土	小児科・内科（院長・荒木） 神経外来（荒木） 2・4土 アレルギー（大柴） 発達心理（藤本）	乳健・予接（1時~2時） じっくり外来（院長:不定期） 栄養相談（関）（乳幼児、生活習慣病）	小児科（荒木:2時~3時）
日曜・祝日	9時~12時	休日診療・予接（院長・荒木・佐々木）	

乳健：乳児健診、予接：予防接種、ア：アレルギー疾患、慢：慢性疾患、栄養相談の予約：代表電話で直接予約ください。
●毎週日曜日午前予防接種しております（要予約） ●土曜日のじっくり外来の予定は受付またはホームページでご確認ください。

■電話・インターネット予約サービスコード

項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード
小児科一般	11#	乳幼児健診	16#	3種混合	21#	水痘	26#
内科一般	12#	健康診断	17#	2種混合	22#	おたふくかぜ	27#
アレルギー/慢性疾患	13#	インフルエンザ	19#	麻疹	23#	日本脳炎	28#
隔離感染症	14#	確認	20#	風疹	24#	その他	29#
予防接種	15#	取消	30#	インフルエンザ	25#		

※予約の空き情報は40#でご案内いたします。予防接種（15#）を押した方はさらにサービスコードで希望される項目を指定してください。
サービスコードの確認を、よろしければ0#誤っていれば1#で行ってください。

※インフルエンザの予約は予防接種枠で希望される方は15#をプッシュして25#をおします。
一般診療枠、日曜・休日で接種を希望される方は19#をしてください。

院内設備:隔離感染症室、電話自動予約機（24時間対応）、空気清浄装置（臓器移植にも対応できる）（3台）オゾン空気清浄・防臭装置（2台）電解水発生装置、消毒用専用スプレイザー
検査機器:レントゲン装置、自動解析装置付心電計、血球分析器、CRP/ASO測定機、検尿器、電子スパイロメーター、血糖測定器、経皮酸素分压モニター、24時間酸素分压モニター、聴力検査機器、心電図モニター、チンパノメトリー、アトムネオテープル

院内設備・機器